

つくる健康



京都医療生協

第184号 2017年(平成29年)7月15日
発行所/ 京都医療生活協同組合
京都市中京区聚楽廻東町2番地
視力センタービル地階
☎075(822)2286 FAX075(822)6133
発行責任者/ 山田 亮三

第70回通常総代会開催

眼科医療を通して、人間らしい暮らし実現に貢献しよう！



第70回通常総代会の会場風景

総代の皆さん、ご出席ありがとうございます。
さて石垣市で約二万七千年前の旧石器時代の全



京都医療生協理事長
山田 亮三

豊かな長寿社会に向けて、柔軟さと勇気とを！

開会挨拶

中野眼科を開業している京都医療生活協同組合の第七十回通常総代会が去る六月十日(土)午後、中京区の本能寺文化会館五階/醍醐の間に、総代や役員など七十人の参加で開催されました。
総代会は、山田理事長の開会挨拶で始まり、ご来賓としてお迎えした京都府生活協同組合連合会の高取淳専務理事から、ユネスコ無形文化遺産に認定された協同組合の社会的役割を踏まえても奮闘しようとの励ましをいただきました。議案としては①二〇一六年度事業報告・決算②二〇一七年度事業計画・予算③二〇一七年度役員報酬金の額および特別決議のすべてを満場一致で可決・承認しました。
総代会終了後、総代懇親会を開催し、宮本和明副理事長から「眼科に関する最近の話題」として「スマホ老眼」、「ドライアイ」を中心に、興味溢れる講演をお聴き、意義あるひとときをすごすことが出来ました(講演要旨は次号でご紹介予定ですので、お楽しみに)。
総代会開会にあたっての山田理事長の挨拶の大意は次の通りです。

身人骨が見つかりました。その手足を折り畳んで身体に密着する埋葬姿の「甕」や長寿への祈りが込められているのではないのでしょうか。現代の私たちは、この旧石器時代に連なっているのかもしれない。念ながら、必ずしもそうとは言えません。今や「高齢者お荷物論」が花盛りです。

本日は、第七十回の通常総代会開催、おめでとうございます。京都医療生協が長きにわたり、この京都の地で「より良い医療の提供」に取り組んでこられましたことに、改めて敬意を表したいと思います。



高取 淳氏

(京都府生活協同組合連合会専務理事)

「ご来賓挨拶

「安心して暮らせる地域社会づくり」をめざして活動している連合会です。昨年、「協同組合の思想と実践」がユネスコ
「ユネスコ無形文化遺産に登録されましたが、メディアでは「山鉾」や「食」の登録に関する報道はありましたが、「協同組合」

「安心して暮らせる地域社会づくり」の実現に向けて「新たな四つの役割」を決めました。京都医療生協を始めとする会員生協や諸団体の皆さんとの連携をさらに強めることで、私たちも、しっかりとその役割を果たしていきたいと考えております。今年度も引き続き、生協の役割発揮に向けて、ともに力を合わせ奮闘してまいります。京都医療生協の益々のご発展を祈念しております。

一斉休診のお知らせ
本年八月十五日(火)・十六日(水)はすべての中野眼科診療所ではお盆一斉休診とさせていただきます。
大徳寺前診療所の診療時間変更のお知らせ
午前診療(10時〜13時)のみとなります。
木曜日・日曜日・祝日は休診です。

「和食」がユネスコの世界文化遺産に登録され、欧米では和食を楽しむ人たちが増えているそうです。しかし、日本では若い人々を中心に「和食」離れがすすんでおり、高カロリー油脂の摂取が増えて肥満が問題になっています。日本が和食を世界文化遺産に登録した背景には、和食がなくなってしまうという危機感があつたようです。「おいしさの科学」の第一人者の伏木享先生(龍谷大学農学部教授)によると、高カロリーの油脂は脳を刺激し病みつきになる美味しさを持っている。この油脂に匹敵する美味しさを持っているのが和食の「だし」(かつお・昆布)だそう。和食に「だし」は欠かせません。かつおや昆布の香りがする「おいしさ」と感じるのは、こどもの頃から「だし」に慣れ親しんだ世代です。「だし」のおいしさは教えないとなくなってしまう。子供たちに「だし」のおいしさを伝えたいですね。
(友藤弘子)



